

皆さん、同時通訳のブースをご覧になったことはありませんか？ よっぽど大きな会議場でない限り、ブースが常設されている所はほとんどありません。

同時通訳が必要な場合、会議場の1カ所または「裏（別室や舞台袖など）」と呼ばれる所に、まるで仮設住宅のようにバタバタとブースが立ち上がります。

ブースには、横のブースにいる同僚に迷惑がからないよう、窓を除く壁やドアの内側、天井に防音材が使用されています。

そのほか、二人の通訳者が座るいすど机、ランプ、テレビモニター、そして通訳用の機材2台が狭い空間にひしめき合うように設置されています。そこに二人の大人が入ると、とても窮屈です。

私たち通訳者が会場に着くころには、ブースはすでに出来上がっています。最初に確

認めることは、通訳用の機材のインフラット・アウトフラットボタンや言語の切り替えチャンネルがどれかということ。そして、マイクのテストを行

境界に生きて

ローマからの便り
大ローマ布教所ようぼく
山口さやか

同時通訳者の事前準備



絵・遠藤真千子

に交代しながら行きます。その間、ひっきりなしに通訳している、大量のアドレナリンが全身を巡っているのが自分でも分かります。防音材で覆われたブース内の気温も上昇してくるので、喉が渇いて水を飲みたくくなります。水を

かし、大概ドレスコード（服装規定）が決まっているので、その選択も限られてしまします。

通訳を交代したら、すぐにお手洗いへ行きますが、会場によっては、お客さまの間を通過していかなくてはならないこともあります。そのような場合は、人目につかないよう、ある程度の「優雅さ」と「平静さ」を保って行かなくてはなりません。

周到に準備しても、会議が終了した直後に何度が失態を演じたことがあります。マイクの切り忘れです。緊張の度合いが一気に下がり、マイクのスイッチがオフになったのを確認せずに「トイレに行こう」と言った声が発内へに流れってしまったのです。

ただ訳すだけでなく、一連のことを気にしなくてはならないので肩が凝りますが、一つの仕事をやり遂げた達成感最高です。

います。

また、お手洗いのある場所をチェックしておくことも大切な事前準備の一つです。プロの通訳者は、20分ごと